

## くれあ通信 1月号

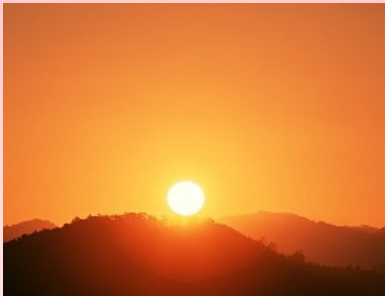
みなさま、新年あけましておめでとございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

埼玉県朝霞市の2012年元旦は天気も良く、とてもすがすがしいものでした。一年の計は元旦にあり。今年も一年素晴らしい年になる予感がいたしました。

昨年は震災があり、みなさんの周りでも様々な変化があったことと思います。首相（大学の先輩です！）も変わり、朝霞では議員宿舎のことが色々な場所で報道されました。この業界も、ビジネス変革が隆盛をきわめています。かのスティーブ・ジョブズが若くしてなくなり、時代を席卷していたアップルもこれから混迷をきわめていくことが予想されます。我々のような小さな小さなソフトウェアベンダーは、今後どのような道をとるべきか、答えなど毛頭ありません。

しかし思うのです。このような厳冬や迷い、悩みは、時代に関わらず存在しているものなのだ。だからこそ、厳しい中でもきちんと前を向いて、自身の場所を確固たるものとすべく取るべき道を進んでいくことが大事なのだと思います。

「世の中甘くない」、まさにその通りです。今年はいわね、我々にとって変革の年になるはず。気合を入れて気持ち新たに突き進んで参ります。

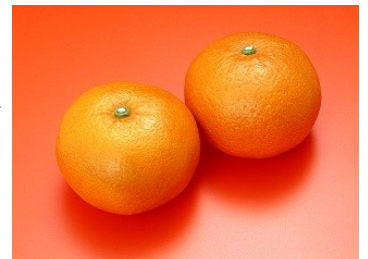


## 朝霞紹介



朝霞市商工会に入会させていただいたおかげで様々な企業やお店を知ることができました。今回はその商工会の会員でもある「味彩 中々」をご紹介します。朝霞駅西口のロータリーの端にあるビルの2F。その周辺を歩いているだけでもすぐに気づける場所にお店はあります。チェーン店の居酒屋は朝霞にも多くありますが、そうではないオリジナリティあふれる料理やお酒が特徴の、心あたたまのお店です。商工会で集まるのによく利用しています。季節ごとにメニューも異なるようで、冬はやはり鍋です。おいし

く、体があったまる鍋が何種類もあります。先日、商工会の忘年会で、たまたまあるゲームで1等になりました。その景品は、なんと「中々 一万円お食事券」でした。今度、新年会できっと利用することになると思います。おいしい食事とお酒が朝霞にもありますよ！



## 映画紹介

### 『イントレランス』

以前『大列車強盗』をとりあげましたが、その監督であるエドウィン・S・ポーターが映画の祖であるならば、映画の父と言われるのが『國民の創生』やこの『イントレランス』を撮りあげたD. W. グリフィスです。グリフィスの映画は今見ても全く見劣りしません。なぜならば彼が築き上げた映画の文法は今日でも使われているからです。映画を少し勉強したことがある人ならば誰しもが通る超有名監督です。さて『イントレランス』ですが、上映

時間3時間弱の超大作。4つの時代の不寛容を壮大すぎるセットと共に映し出します。啞然とするほどのセットの偉大さは今なお伝説として語られています。映画で見るとその素晴らしさに息をのみます。そして物語も秀逸。映画意識の高さに本当に驚かされます。

イントレランス  
Intolerance  
1916

Director: D.W. Griffith  
Writer: D.W. Griffith  
Cast: Lillian Gish  
Mae Marsh



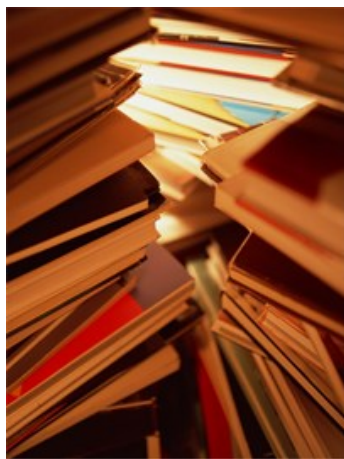
## 書籍紹介

### 『海辺のカフカ』 村上 春樹

十五歳になったとき、少年は二度と戻らない旅に出た。誕生日の夜、少年はひとり夜行バスに乗り、家を出た。生き延びること、それが彼のただひとつの目的だった。一方、ネコ探しの名人であるナカタ老人も、何かに引き寄せられるように西に向かう。暴力と喪失の影の谷を抜け、世界と世界が結びあわされるはずの場所を求めて――。

「フランツ・カフカ」賞を贈られ、村上春樹の名を国際的なものにする上で決定的な役割を果たした作品です。

本作で描かれる風景は現実の記憶と結びつけられ、鮮やかな色彩を持ちます。対して寓話的なストーリーは夢の記憶と結びつけられ、曖昧で、もの寂しい感情が想起されます。荒唐無稽なストーリー、非現実的なキャラクターなどとして、批判的な意見もあるようです。確かに、この作品は映像化してもおそらくそれほど受け入れられないでしょう。本作を本作足らしめているのは、読者側に自由な創造を委ねることができる、村上春樹の文章技術があつてこそだからです。是非あなたの海辺のカフカを味わってください。



# Crea

コンピューターソフトウェアの企画、開発なら株式会社クレアへ